

収支決算（見込）書

収入の部

款	項	目	金額（円）	内訳
県支出金	県補助金	教育費県補助金	355,000	社会教育費県補助金
一般財源			355,000	
計			710,000	

支出の部

款	項	目	金額（円）	内訳
総務費	総務管理費	██████████	60,000	報償費
			104,000	需用費
			(80,000)	(消耗品費)
			(24,000)	(印刷製本費)
			506,000	使用料および賃借料
		██████████	40,000	報償費
計			710,000	

上記のとおり相違ないことを証明します。

平成20年4月10日

野洲市長 山崎甚右衛門



事業実施計算書

市町名 野洲市

区分	費目	金額	積算の基礎
対象経費	報償費	円 40,000	講師謝礼([redacted] 保護者会) 円 20,000
	旅費		[redacted] 宿泊体験活動 協力者謝礼 5,000円×4人 円 20,000
	印刷製本費		
	通信運搬費		
	保険料		
	雑役務費		
	使用料及び賃借料		
合計	(A)	40,000	【補助金額 (A) × 1/2】 【 20 千円】

注)「積算の基礎」欄は可能な限り会議・説明会等の事業区分毎に単価や員数等を用いた計算式を記載すること。なお、実施施設数が複数の場合は、実施施設毎に作成し、費目毎の合計額を本様式に計上した総括表を作成すること。

事業実施計算書

市町村名 野洲市

区分	費目	金額	積算の基礎
対 象 経 費	報償費	60000	<p>円</p> <p>小中学生宿泊体験活動指導者謝金 20000</p> <p>中学生現地研修会指導者謝金 20000</p> <p>高校生現地研修会指導者謝金 20000</p>
	旅費		
	消耗品費	80000	<p>用紙代 12000</p> <p>進路保障推進委員会 A4 5箱 6000</p> <p>小中学生宿泊体験活動 A4 5箱 6000</p> <p>インクカートリッジ 10000</p> <p>小中学生宿泊体験活動 5000</p> <p>小学生勤労体験活動 5000</p> <p>フィルム(レンズ付きフィルム含む) 21000</p> <p>進路保障推進委員会 600×4本=2400円</p> <p>就学前親子ふれあい活動 600×8本=4800円</p> <p>小中学生宿泊体験活動 600×8本=4800円</p> <p>小学生勤労体験活動 300×10本=3000円</p> <p>中学生現地研修会 300×10本=3000円</p> <p>高校生現地研修会 300×10本=3000円</p> <p>小中学生宿泊体験活動用消耗品 19000</p> <p>薪 400×5束=2000円</p> <p>灯油等 1000×3=3000円</p> <p>木炭 2000(2kg)×3=6000円</p> <p>乾電池等 400×5セット=2000円</p> <p>サンドペーパー・ワイヤブラシ 6000円</p> <p>勤労体験活動用消耗品 28000</p> <p>用土 7000円</p> <p>有機肥料 8000円</p> <p>(2000円×4本)</p> <p>消毒薬 5000円</p> <p>苗・種代 @100×80苗=8000円</p>
	印刷製本費	24000	<p>写真現像、プリント料</p> <p>就学前親子ふれあい活動 2000</p> <p>小中学生宿泊体験活動 5000</p> <p>小学生勤労体験活動 5000</p> <p>中学生現地研修会 4000</p> <p>高校生現地研修会 4000</p> <p>進路保障推進委員会 4000</p>
	通信運搬費		
	保険料		
	雑役務費		
	使用料及び賃借料	506000	<p>中学生現地研修バス借り上げ料(長野方面 8/1~8/3)</p> <p>189000円×1台(3日間)= 189000円</p> <p>中学生現地研修会場借り上げ料 196000円</p> <p>高校生現地研修バス借り上げ料(香川方面 8/9~8/10)</p> <p>121000円×1台(2日間)= 121000円</p>
	合計 (A)	670000	
			【補助金額(A)×1/2】

注)「積算の基礎」欄は可能な限り会議・説明会等の事業区分毎に単価や員数等を用いた計算式を記載すること。なお、実施施設数が複数の場合は、実施施設毎に作成し、費目毎の合計額を本様式に計上した総括表を作成すること。

平成19年度子どもを支える人権のまちづくり促進事業実績書

施設名 [REDACTED]

管内区域 [REDACTED]

- ①困難を抱える児童生徒が多く特別な配慮を必要とする管内の現状の変化
(保護者や児童生徒の生活面・学習面等からみた管内の状況の変化)

②取り組みの成果

保護者学習会では、講師に人権啓発集団「たんぼぼ」さんをお迎えして、朗読劇を鑑賞後、グループに分かれて話し合いをされた。「子どもには絶対差別を受けさせたくない。差別を見逃さず、差別をゆるさない子に育てほしい」との願いの朗読劇を受けて「差別をしない」ではなく「差別をなくす」立場に立ち、今自分に保護者として何ができるかについて考える良い機会となった。また、例年実施されている「[REDACTED]」宿泊体験では、今年度から、地域の協力者等も参加して、児童生徒のモデルとなって活動ができ、さらに集団の連帯意識を高める機会となった。

③今後の方針等

(上記①および②をふまえ、事業実施後の課題や改善点など)

今年度と同様、保護者学習会を行い、保護者への啓発を中心に進めるとともに、これからは、児童生徒とその親や親同士のつながりを深めるための取り組み、高大生等の青年層やその親をも巻き込んだ取り組みを進めていきたい。

事業の内容

名称	[REDACTED] 保護者学習会	[REDACTED] 宿泊体験学習会	
対象	小・中学生の保護者、地域住民、各校園の教諭	[REDACTED]の学級生、小・中学校教諭、及び協力者	
内容(テーマ)	「今、自分にできることは？」というテーマで、「差別をしない」ではなく「差別をなくす」たんぼぼさんのような志を持つ仲間の活動から学び、親として子どもたちに何をすべきか考える。	[REDACTED]に参加する異年齢間の仲間が、宿泊を伴った交流活動を行うことで、本当の仲間としての心のつながりと連帯意識を高め、集団としての団結力を高める。	
参加者(うち児童生徒数)	25人 (0)人	24人 (16)人	
実施場所	[REDACTED]	[REDACTED]	
開催期間	平成20年 1月27日	平成19年8月22日 ～ 平成19年8月23日	
開催時間	2時間	33時間	時間
事業実施による成果	保護者学習会を通して、部落解放に向けて今親として子ども達に何をすべきか考える良い機会となった。また、宿泊体験では、地域の協力者も参加して、児童生徒のモデルとなって活動ができ、さらに集団の連帯意識を高める機会となった		

※1市町村において複数の施設で実施する場合は施設毎に作成のこと

※事業実施計算書は別紙共通様式により提出すること

平成19年度子どもを支える人権のまちづくり促進事業実績書

施設名

管内区域

- ①困難を抱える児童生徒が多く特別な配慮を必要とする管内の現状の変化
(保護者や児童生徒の生活面・学習面等からみた管内の状況の変化)

②取り組みの成果

従来より[]の児童生徒が在籍する校園や児童生徒の保護者と連携して子ども達の進路保障の取り組みを進めてきた。徐々に成果が上がってきている面も見られるが、厳しい状況の家庭もそのような中で高校生が[]全国高校生集会等の場で自分の思いや行動について堂々と語れた確かな成果もあった。

③今後の方針等

(上記①および②をふまえ、事業実施後の課題や改善点など)

子ども一人ひとりの進路保障を進めていくには、校園の取り組みだけでなく、家庭の果たす役割も大きい。家庭的にしんどい状況のところもあるが、高大生の保護者会が結成されるなど、保護者会の活動は活発である。そこで、保護者会活動の積極的な支援をはかりながら、保護者とともに、子どもの生活と学力を高める取り組みを進めていきたい。

事業の内容

名称	小中学生親子宿泊体験活動	小学生勤労体験活動	中学生現地研修会
対象	地域内児童・生徒・保護者	地域内児童・保護者	地域内生徒・保護者
内容 (テーマ)	児童や生徒と保護者が集団で野外での体験活動等をする中で、規律意識や勤労観を培う。	親子で栽培活動を通して、勤労観や職業観を培う一助とする。	集団での宿泊や研修活動を通して、生活習慣や規律意識等について見直す
参加者 (うち児童 生徒数)	80人 (50人)	45人 (32人)	30人 (18人)
実施場所	[]	町有地の畑	長野方面
開催期間	平成19年7月21日 ～ 平成19年7月22日	平成19年5月1日 ～ 平成20年3月31日	平成19年8月1日 ～ 平成19年8月3日
開催時間	42時間	30時間	60時間
名称	進路保障推進委員会	高校生現地研修会	就学前親子ふれあい活動
対象	校園教職員・地域内 保護者	地域内生徒・青年層	地域内保護者・園児・乳幼児
内容 (テーマ)	講演会や懇談会等を通して校園や保護者・地域が連携して児童・生徒の進路保障の取り組みを進める。	集団での宿泊や地域の先輩とのふれあいを通して、自分たちの進路や、地域の活動について展望を持つ	親子でのふれあいの持ち方や就学前の子育てで大事にしておかなければならないことについて研修する。
参加者 (うち児童 生徒数)	のべ500人	20人 (15人)	50人 (30人)
実施場所	[]・校園	香川方面	[]
開催期間	平成19年4月1日 ～ 平成20年3月31日	平成19年8月9日 ～ 平成19年8月10日	平成19年7月30日 ～ 平成19年10月23日
開催時間	90時間	40時間	
事業実施 後に期待 すること	児童・生徒が生きる力を身につけ、夢を持って将来展望を描き、地域社会の担い手となっていってくれること。保護者も、子どもの進路に対して高い意識を持ち、子ども達と語り合えるようになっていくこと。		

